

BOOK TRAIN

ブックトレイン

千代田図書館
学校支援担当発行
冬の図書だより
2014
中学生版

中学生の皆さんにおすすめの本を紹介します。



『森は生きている』

サムイル・マルシャーク／作 ゆあきよしこ湯浅芳子／訳 岩波書店

おおみそか大晦日、おほみそか深い森の奥で12の月じょや たひは除夜の焚き火をかこむ

わがままな女王じょおうがおほみそか大晦日に「4月の花マツユキソウを新年までに御殿へ届けるべし」とおふれ布令を出した。届けた者にはごうか ぼつひ豪華な褒美が与えられるという。褒美に目がくらんだままは継母は、マツユキソウを摘んでこいと、ままむすめをふゆ吹雪の中へ追い出す。凍いてつく寒さの中、ままむすめは森の奥に明るく燃える焚き火を見つける。ロシアの昔話をマルシャークが美しいききやく戯曲にまとめた。

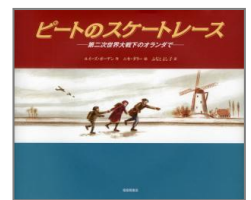


『ピートのスケートレース —第二次世界大戦下のオランダで—』

ルイーズ・ボーデン／作 ニキ・ダリー／絵 ふなとよし子訳 福音館書店

こっきょう国境を越えてこ極寒の氷上ひょうじょうをすべる少年のゆくえは？

冬の間、オランダの人々は固く凍ったうんが運河の上をスケートで行き来する。10歳のピートもスケートが大好きだ。ドイツにせんりょう占領されて1年以上が経ち、物ぶつ資の乏しい中、母さんが贈ってくれたのは小さな赤い革の手帳。いつかレースに出場する日を夢見て、ピートはそこにスケートレースについて調べたことを書き込んでいる。ある日の午後、そんなピートは重大な仕事まかを任される。



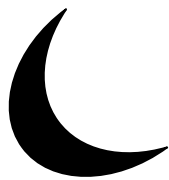
『氷の心臓』

カイ・マイヤー／著 とよやまあきこ遠山明子／訳 あすなる書房

実際に起きたこうてい皇帝暗殺事件をベースにしたげんそうてき幻想的フィクション

ていせい帝政ロシアの、サンクトペテルブルク。ホテルで生まれ育ち、外に一度も出たことがない少女マウスはプロの殺し屋、タムシンという女性に会い友達となる。しかしタムシンは雪の女王の暗殺を遂行するため、そして父のかたき仇を討つためにホテルをばくは爆破すると言い出した。何百人もが死ぬ恐れのある爆弾への点火をどうにか止めたいマウスの前に、雪の女王が現れて…。





『竹取物語』

たけとりものがたり

えくに かおり 江國香織／文 たちはら いぬき 立原位貴／画 しんちようしゃ 新潮社

千年の時を超えた日本最古のファンタジー



「今は昔、竹取の翁といふものありけり」日本最古の物語とも言われている『竹取物語』が、江國香織さんの瑞々しい訳でよみがえった。かぐや姫の美貌に翻弄される男たち。しかし、かぐや姫の出す課題をクリアできる者は一人もいない。そこまでやるか…と可笑しくも悲しいお話である。立原位貴さんの江戸時代の技法、材料にこだわった美しい浮世絵も一見の価値あり。

『帰宅部ボーイズ』

きたくぶ

はらだみずき/作 げんとうしゃ 幻冬舎

「カナブンが僕をひとりから解放してくれた」



元野球部員の直樹はサッカー部を辞めたカナブンと帰る途中、男にからまれているテツガクを助けた。それ以来、3人は共に放課後を過ごす帰宅部となった。映画で観たスケートボードをまねて手作りし、乗る練習に明け暮れる毎日。ある日、運動が苦手なテツガクが、8ミリカメラを抱えてやって来て、映画を撮るといふ…。ちょっぴりせつなく、ひたむきな中学時代を振り返る物語。

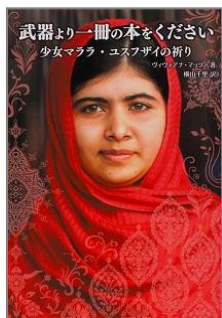
『武器より一冊の本をください』

ぶき

少女マララ・ユスフザイの祈り』

ヴィヴィアナ・マツア／著 横山千里／訳 金の星社

ノーベル平和賞を受賞した 少女の想いをひも解こう



マララがもし日本に生まれていたら、学校に通い休日は友だちと買い物などを楽しんでいただろうか。けれどマララが生まれた国では、外出することも、普通に勉強をすることもさへも危険を伴うのが現状である。女性の教育を受ける権利を認めないと考える人たちによって銃撃されたマララ。「すべての人に平和と教育を」。一命を取り留めた彼女は、今も命がけで活動を続けている。

『クラスメイツ』（前期・後期）

もりえと 森絵都／著 偕成社

24人でリレーした「中学1年」の1年間



中学1年生のクラスメイト24人それぞれを主人公にした、24の短いお話からなる全2巻の短編集。一見「ふつう」の中学生の「なんてことない」日常だが、同じ教室で過ごす一人一人の目に映る風景のちがいが丁寧で素敵にとられている。それぞれを描きながらも、いつのまにか全体がひとつにまとまってい。自分や友人に重なるエピソードがきっとひとつは見つかるはず。